

No. 36

36

北海道建築士会 女性委員会

平成19年度 女性建築士の集い 講演テーマ「サハリンの生活と住まい」について

美幌支部 山岸百合子

去る6月23日北海道東海大学旭川校にて当校の川島洋一教授による講演会が開催されました。参加者の中には卒業生や現役の学生、また一般の方も参加されていました。歴史意匠専門委員会会員である川島先生は、最初に旭川の歴史的建造物の保存が大切、貴重な建物が壊されその跡にビルが建つという「没個性」の都市化が進行していると指摘。その話から始まり北海道の建物は今まで南の文化や建築を取り入れてきた。柱を立て、梁を渡し、壁で囲う、そこに断熱材を入れる科学的な寒さ対策は無理を感じ、その代償がシックハウスという現状をもたらしている一つの要因ではないだろうか・・・もっと北の文化に目を向けるべき時がきている。そこで北海道北部を対象とした生活環境に関する研究を進めている。日本海に面する留萌支庁の特質と生活上での工夫として、小平町の海岸線には町民自らの知恵



川島先生ありがとうございました。

で海風の対策として、近隣との連携をはかり高さ3m程の仮囲いが1.2km連続している。またオホーツク海側の網走支庁北部では防風樹が機能している。宗谷支庁では、ガラス囲いや高低の仮囲いと少々様々である。視線は宗谷海峡を越え、さらに北へと向かい日本海側の仮囲い、オホーツク海側の防風樹はサハリンでも続いているのではないかと仮説を検証するため2004年から毎夏、現地へ渡り調査を進めた結果、サハリンの日本海沿岸でも仮囲いの住居が確認された。サハリン南部が日本領だった時代、日本人が持ち込んだ生活の知恵が60年経った今も生きていた。北海道の建築史という観点からアイヌ民族の住居チセを高く評価し、雪に埋もれるチセは雪を断熱材とし、また土間床のぬくもりがある。

これからの北国の街づくりは、北の文化を見直しながら雪のエネルギーと土のエネルギーを活用した、厳しい自然条件と積極的に共生する方向へと進むべきであると言う。早い実現を願っております。



参加された皆さんです。

女性建築士の集い～旭山動物園見学会～

旭川支部 尾崎しのぶ

集いの後半、参加者12名で旭山動物園見学のため移動した。予定より少し遅れてしまい到着したのは3時頃だったのだろうか？駐車場はまだ多くの車が留められ、団体客迎えのためのバスが、新設された東門に次々と入ってくる。昔では考えられない光景である。私は少女時代から幾度もこの動物園には訪れており、沢山の思い出がある。高校生の頃、1つ上の先輩との初めてのデートもここだった。その頃の動物園は人がまばらで、お忍びデートにはもってこいだった。また、娘たちの幼稚園の遠足もここだった。我が物顔で広い芝生を陣取り、皆でお弁当を食べた。子供を目で追うような事はしなくても迷子の心配は無かった。本当に長閑だった。動物たちはというと、狭いオリの中で殆ど動かず、つまらなそうに寝ていた。今日は、3時を過ぎてもこの賑わいである。新設され広くなった館の中で動物たちは生き生きとしているようは見える。随所にガラス窓があり、色々な角度から間近で行動する動物たちを観察できるように工夫されている。手書きの説明書きも目に付く。確かに楽しい！動物を見る目が変わる！園担当者や地元建築関係者の熱意と努力が感じられる。全国的にも有名になった動物園、「入場者数、全国1位」とニュースで流れ、動物園のドラマがテレビで放送される。今や道外から、海外からぞくぞくと観光客が訪れ、館には入場を待つ長蛇の列が出来る。生まれ変わった旭山動物園は、私たち旭川市民の誇りであり自慢ある。しかし、少し寂しい。市民がのんびり癒しを求めて来られなくなった。ふと、昔の長閑な動物園を懐かしく思う。



たのしい～!!

グループリビング見学会報告

道南Bブロック 北村 裕子

4月12日に道央ブロックの東さんに同行し、道南Bブロックの小形さんと共に登別市にあるグループリビング「たすけ愛の家」の見学に行ってきました。この施設は、星川代表を中心に、家庭の主婦達が、高齢者・障害者の人達に何か手助けできないか？という思いから家事サービスの活動をスタートし、賛同する人達で話し合い・助け合いながら地道な活動を続け、10年目に完成した活動の拠点となる「高齢者グループリビング」です。これまでの活動について星川代表の話聞き、そのパワーに圧倒されました。



いぶり たすけ愛

認知性高齢者対称のグループホームとは違って、グループリビングは入居者の自主性と尊厳を重要視した上で、共に食事をしながら支え合って共同で生活するという形態の施設なので、各居室には台所と便所・洗面所があり、充実した個室となっていました。女性スタッフの意見を随所に折り込んで設計され、明るい生活空間に仕上がっていましたが、各居室の出入り口を引き戸としたために音の問題が発生したと反省点も聞き、大変勉強になりました。

急に見学の日程が決まり、平日であったこともあり少人数の参加ではありましたが、見学会の前には食事をしながら情報交換をし、見学会では建築とは異なる分野で活躍する女性のパワフルな話を聞くことができ、とっても有意義な1日でした。

小池かおるのサハリン日記

旭川支部 小池かおる

2004年8月17日、AM 7:00鐘の音が聞こえる。ラーダホテルのすぐ前が、ロシア正教会。多分、ここから聞こえてくるのだろう。(いい気分)

朝食は何かな〜と上階へ。パンと牛乳、サラダ。チーズのようなものが、2切れ。これが、一つがチーズで一つがバター。同じ形をしていて同じ色をしているものだからT君は間違えた。(バターをパクリ。)

急いで朝食をすませた後、横幕さん、T君、小池で散歩にでかける。話には聞いていたが、ロシア娘達は八頭身美人で、お人形さんのよう。街並みも緑が多く、雰囲気も東洋と西洋がまじって不思議な感じがする。なのに、日本製の中古車がたくさん走り「〇〇商事」なんて書かれてあるのも、(名前入り)そのまま、自家用車で使用されていた。少し歩くと日本の城のようなものが…。サハリン州立郷土博物館だった。(かつての樺太庁博物館)建設以来ほとんど手を加えておらず、老朽化していたが、次の年に行ってみたら(なんと、次の年も小池、横幕、T君はサハリンに行ってしまった。)少しずつ修復されていた。

AM 9:00過ぎ。ユジノサハリンスク市内を走り旧真岡(ホルムスク)に向けて出発。日本の建物が随分残っている。ヨン様の話によると、終戦で日本人が家を残していったところに、ロシア人が住んだり同じような感じで自分達で建てた。旧真岡(ホルムスク)はサハリン第二の都市で、ユジノサハリンスクから約80km。2時間位で到着。(間宮海峡側にある)ちょうど、お昼だったので、駅の近くのサハリンでの日本料理第1号店「くしろ」に入った。中国と香港と日本がまじりあったおかしな空間だった。食事は、ボルシチ、サラダ、肉など美味しかったし、トイレも、とってもきれいでよかった。食事をおえると、近くでパズールをしていたのでのぞいてみた。野菜や果物がたくさん。次の年もここに寄りプーチン大統領の顔が描かれているマグカップを買った。自分で使うつもりで買ったのだが、家で見ると、気分がのらないので、お世話になっている人にあげた。

午後からは、海側へ。旧王子製紙の工場が残っていた。(面積が大きく驚いた)でも、ボロボロだった。今は一部ボイラーだけ使用しているという事。海辺の住宅は、ほとんどが日本の木造住宅のようなものでそれにロシア人がきれいな色で飾りを付けていた。PM 9:40、ユジノサハリンスクから寝台急行に乗り北緯50度線を越え、ノグリキに向けて出発。これがまた、変な列車で駅に到着する前後1時間位は、トイレを使用する事ができない。何度行っても鍵がかかっている。

8月18日、早朝、列車から外の写真やビデオを撮ったりしていると、車掌に文句をつけられる。怒ってるな〜。この列車の車掌は全員女性。(皆、とても感じが悪い。)通訳のヨン様が呼ばれる。駅、周辺の撮影はすると言う事らしい。スパイ容疑で、突き出されるかと思った。ノグリキに着くと、お兄さん3人がそれぞれトヨタの中古車で街中を案内してくれた。天然ガスの開発で労働者がたくさんいる。その人達と一緒に食事を。ボルシチはどこで食べても美味しいな。海の近くまで行く3人組は近くの草原で、何か摘みはじめた。食べてるようだ。何かの実らしい。帰りの列車でも、ポロナイスクと言う駅で45分停車した時、乗客が周りにある木の実らしきものを摘んで食べていた。私は「何?」と日本語で言いながら見ていたので、おじさんが実をくれた。野いちごのような甘くて美味しい実だった。

18日夕方、途中下車。ティモフスクと言う町で一泊。宿は、見た目が廃屋のような共同住宅で驚いたが、中は、掃除がきれいにされていて、健康的な食事だった。夜、近くに店があると言うのでボディガード二人付けてお菓子と水を買いに。真っ暗だし、全然、近くないかった・・・。



旧真岡(今はホルムスク)

ストローベイルハウスを見学して

旭川支部 南田 優子

以前から、時折目にするのがあったストローベイルハウスという言葉。実際の建物を見てみたいとずっと思っていました。念願叶っての見学会を楽しみにしていました。そして当日は、雨で肌寒くあいにくの天気。現地に着くと、雨の中傘も差さずに熱く、木の話、建物を建てる経緯や自然環境まで話してくれる建て主さん。気持ちはぐっと盛り上がり、まだ建設途中の外観を見て、そして室内へ…。

家の中に入ったとたんに「懐かしいー。」思わず口に出てしまいました。つい既製品を使ってしまう今時の建築とは違い、色々な物を大工さんが作製しています。キッチン、シンク、トイレ。一見、シンプルに見えて大工さんの技が至る所に見られ、感心することしばしばでした。そして肝心のストローベイル。わらを断熱材として利用した家。それは沢山の手間と時間をかけた家でした。多くの人の手によって少しずつ出来上がっていく家。時間が経てばそのまま自然に戻る家。リサイクルできる家。とても沢山の事を考えさせられ、反省させられた一日でした。



～お施主様を囲んで～
ご協力ありがとうございました！



建設途中（土塗壁前の様子）

女性委員会 第2回女性委員会 報告

委員長
早川 陽子

今年の夏は、全国女性建築士連絡協議会（青森）、秋の全国大会と、活動を進めてゆきます。

全国大会、皆さんのちからで成功させましょう。

- ・とき 6月23日(土) 午後1時25分～2時30分
- ・ところ 東海大学旭川校 松前記念館

1. 全国大会へ向けて

- ① 情報パーク（屋台村）の出店が正式決定
・女性委員会の各ブロック活動をパネルで紹介
・大会時の役割分担
- ② クイズ・知ってるつもり募集
・各ブロック長より問題と回答・解説がありました。（12案も！）
・景品の案…北海道各地の名産21案
・役割分担の決定

2. 全建女（7月13日(金) 14日(土) 青森市）

- ① 参加者…山本、早川、東、富所、米本、赤木、大西、持田（8名）
- ② 分科会…北海道が活躍しています！
F分科会：子どもと建築
…コメンテーター：赤木、アシスタント：米本
H分科会：集って住む
…コメンテーター：東、アシスタント：富所

③ 素材アンケート PART II 「素材のゆくえ」

- ・札幌軟石、江別煉瓦などを紹介
- ・全建女の報告は154号を予定しています。

3. 3部会活動の近況

- ・子どもと建築部会では2ブロックで講習会を計画。冊子残り部数は147冊。
まだお持ちでない方は、お早めに事務局へ。

4. 女性建築士の集い…6月23日(土) 旭川市

- ・講演会21名、見学会12名
- *全国大会・屋台村でおまちしています*

【お詫び】

前号 No.152号に誤りがありましたので、お詫びいたすとともに以下のとおり訂正させていただきます。

P30 執筆者	
「正」松浦 由希	「誤」本間 恵美
P30 タイトル	
「正」勉強会の報告	「誤」勉強会の報告会報告
P29 タイトル	
「正」小池かおるのサハリン日記	「誤」小池かおるのサハリン日記会報告